

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度（評価）

A : 十分達成できている
B : おおむね達成できている
C : やや不十分である
D : 不十分である

学校名	鹿島市立古枝小学校	C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・全職員が学力向上を目指し、課題の改善に向けて具体的手立てを講じてきた結果、どの学年も学力の向上が見られた。今後は実態分析と課題の洗い出しを行い、全職員で共通実践に努めていきたい。 ・心のアンケートや観察等をもとに職員間での情報共有を行い、気になる児童の状況やいじめ事案について、早期発見・早期対応ができた。今後も、児童が自分の生活をよりよくしていこうとする意識を高めることができるよう、心の教育についての組織的な取組を継続していきたい。 ・職員の働き方についての意識改革を推進したことで、時間外勤務の平均時間の減少へとつながった。今後も、さらに児童と向き合う時間を確保し、充実した教育活動ができるよう、家庭・地域と連携を図りながら進めていく。全職・全職員が学力向上を目指し、課題の改善に向けて具体的手立てを講じてきた結果、どの学年も学力の向上が見られた。今後は実態分析と課題の洗い出しを行い、全職員で共通実践に努めていきたい。	
2 学校教育目標	かがやけ！「古枝スピリッツ」～“やる気・優しさ・元気”いっぱい	
3 本年度の重点目標	①【やる気】「確かな学力」の向上を果たす教育活動を推進する。 ②【優しさ】「豊かな心」を育む教育活動を推進する。 ③【元 気】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動を推進する。 ④【特色ある学校】地域と共に創る学校づくりを推進する。 ⑤【働き方改革】働き方改革を推進する。	

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・課題や学習場面において、必要な情報を見つけ、目的に合わせて表現する力を高める。	○課題解決において、必要な情報を見つけることができる児童80%以上 ○必要な情報を使って課題を解決することができる児童70%以上	・課題解決に向けて、必要な情報を見つけ、表現できるための手立てを講じる。(例・問題文などに印をつける習慣の徹底・情報を見つけるためのキーワードやヒントとなる事柄を提示する・話形を提示する など)			A	「問題の答えを考えると、大事なことや答えのヒントになるように印や線をつけながら考えている」と肯定的に回答した児童は82%。「大事なことや答えのヒントになることを使って答えを出したり考えを書いたりする」と肯定的に回答した児童は84%だった。児童が自主的に課題解決に取り組めるように、例文や話型の提示、児童同士での教え合い、個別指導等を継続して行った。	A ・先生方が子どもに対し、丁寧に教えて下さっていると思う。 ・きめ細やかな教育活動が展開されていると思う。 ・教科学習にいても、体験活動にいても、先生方の連携の良さ、チームワークの良さを感じている。	【やる気部】	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分の良いところを認めることができる児童90%以上 ○自分は、友達から認められていると思う児童を85%以上	・自他共に、認め合える教育活動の充実(特別支援教育・人権教育・学級活動等)			B	・自分の良いところを認めることができる児童は80%で、自分は友達から認められていると思う児童は83%だった。数値的には、変わらないが「あてはまる」と答えた児童が7%増えた。自己肯定感を高めるような教育活動を仕組んでいきたい。	A	・学校評価アンケートから、自己評価が低い児童が見られることが気になる。地域住民だけによる行事に子どもたちを参加させる等、児童の自立心や社会性、達成感等を育てることができるのではないかと考えている。	【やる気部】
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ事案について組織的対応ができていると回答した教員90%以上(学校独自成果指標・記載例を参考にして下さい。)	・週一回の職員連絡会の中で、学級で起きた気になる事案を周知する機会を設定し、担任・生徒指導主任・管理職で組織的に対応していく。 ・月一回の児童の心のアンケートを実施し、全職員で児童の実態把握に努め、適切な指導につなげる。			B	・報告・連絡・相談を職員間で密に行い、事案に対して組織的に取り組むことを心掛けた。今後より一層、事案の対応については、保護者との共通理解を図りながら進めることを大切にしていきたい。 ・月一回の児童の心のアンケートの実施により、気になる児童の実態把握をし、対応につなげることができた。	A	・子ども達が安心して学校生活をおくることができるよう、運営をしてもらっていると思う。 ・学校が小さないじめ事案に対しても丁寧に対応していることは有り難いが、子どもたちが社会に出たときに、自分で解決したり修正したりする力を身に付けさせることも大切だと思う。	【優しき部】
	●◎児童生徒が「夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする」ための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・児童が主体的に活躍できる活動(学習・生活・行事等)を充実させる。 ・各学年に応じて、学期や年間の目標をもたせ、取組や達成感を振り返らせる。			B	「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は92%で、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は84%であった。行事ごとに目標をもたせ、振り返りをする中で、目標の実現に向けて意欲的に取り組むことの良さを味わわせることができた。	A	・以前よりも挨拶が出来なくなっている感じが見られる。学校内で地域の方に会った時は、とても元気で挨拶できているが、一歩外に出てみると出来ていないように感じる。上級生が見本となり頑張ってほしい。	【優しき部】
●健康・体づくり	○運動習慣の改善や定着化	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒85%以上	・運動に対する関心を高めるために体育の授業を通して、運動のもつ特性や楽しさにふれさせる。 ・体育的行事や縦割り活動、運動遊びのイベントを充実させ、児童が運動に楽しむことができる機会を保障する。			B	・縦割り縄跳びやマラソンタイム、駅伝大会などの学校行事や運動委員会による運動イベントを実施したことによって、1日1時間以上運動した児童の割合が4ポイント上がった。	A	・外で遊んでいる子どもたちをほとんど見なくなった。友達との遊びも家の中のゲームが中心になっているのではと気づいている。 ・久しぶりに合同運動会を実施でき、古く全体が大変盛り上がりがあったと思う。	【元気部】
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」児童生徒60%以上	・掲示物や食育授業、給食集会を通して健康に良い食事について周知する。定期的にアンケートを実施し、食生活について振り返らせることで、食への関心をもたせる。 ・児童の実態やバランスの良い食事の大切さについて保健だよりを通して保護者に伝え健康に良い食事への意識を高める。			A	・給食集会で栄養バランスや朝食の大切さ、規則正しい生活について発表したり、食育アンケートの結果を伝えたりしたことで、食への知識や関心を高めさせることができた。 ・保健だよりを通して、朝食の喫食の実態や健康に良い食事、運動のよい効果を伝えたことで、自分の心と体に向き合うことを促しながら正しい生活習慣の意識を高めさせることができた。	A	・新聞で食育標語コンクールで小学校1年生のすばらしい標語が最優秀賞となっていたのを見て、学校教育の力の大きさに感じた。食育は子どもたちのこれからの育ちにおいて、重要なテーマであると思う。	【元気部】
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・日々の業務記録を確実に行う。 ・Web機能を活用した文書配布やアンケート等の実施			A	・2月末時点での全職員の時間外勤務時間の平均は21.6時間で、目標を達成することができた。19:00までの退勤、休日出勤の削減が定着できており、学校全体としての働き方改革が具現化できていると言える。	A	・学校と地域と連携した教育活動が活発に展開されていると思う。とても素晴らしいことだが、学校も地域も互いにあまり無理をしないようにしたいものだと思う。	【管理職】
	○自己の働き方に対する意識改革の実現	○自己の働き方に対する意識改革が実現できた職員100%	・ワークライフバランスの実現に向け、講師招聘等による研修会を実施する。 ・ワークライフバランスを実現するための自己目標を設定する。また、10月1月に目標についての振り返りを行い、各自の意識改革につなげるようにする。			A	・自己の働き方に対する意識改革が実現できた職員は100%で目標を達成することができた。生活全般のゆとりや豊かさを意識したタイムマネジメント、職員間での協力体制づくりや職場の支持的な雰囲気づくりも順調に進み、ソフト、ハード両面の意識改革が実現できつつある。	A	・先生たちの長時間勤務を心配している。働き方改革は進んでいるとは言え、まだまだ進んで働いている状況がうかがえる。 ・子どもを養えるだけでなく、先生たちも養われなければならないと思う。	【管理職】
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者	
評価項目	重点取組 重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言		
○地域と共に創る学校づくりの推進	○学校と地域が一体となった多様な体験活動の推進 ◎自己肯定感や自己有用感を育む教育活動の推進	○「学校は、地域と一体となった多様な体験活動等に積極的に取り組む、子どもの豊かな心を育てている」と回答した保護者や学校関係者90%以上 ◎「人や社会の役に立つ人間になりたい」と回答した児童90%以上	・地域の各種関係団体やPTAとの緊密な連携の下、地域資源(ヒ・ホ・モノ・コト)を積極的に活用した多様な体験活動の充実・発展を実現する。 ・学びの社会につなげるために、総合的な学習の時間や生活科及び社会科等の学習の充実を図る。また、公共的な活動や地域への貢献活動等への積極的参加を推進する。			A	「学校は、地域と一体となった多様な体験活動に等に参加に取り組む、子どもの豊かな心を育てている」と回答した保護者は97%、学校関係者は96%で、学校と地域が一体となった体験活動の推進ができた。 「人や社会の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は93%で、目標を上回る結果であった。様々な体験活動や地域との交流を通して、自己有用感や自己効力感が高まり、地域や社会の一員としての自覚や意識が育ちつつある。	A		・学校としての柱もありながら古くならではの農業、伝統芸能を観光地、そして自然。これらが1年を通して組み込まれ、上手に締めくくられていると思う。 ・子ども達が豊かな心でこの古枝を築き上げていけるように、地域とのふれ合い活動がより活発になればと思う。 ・古枝は学校と地域の方で子育てをしているなあと思う。自ら考え、行動できる様に成長を見守りたいと思う。

5 総合評価・ 次年度への展望	・全職員による共通理解・共通実践のもと、課題改善に向けた児童の意識変容は確認できた。今後は実態分析と課題の洗い出しをさらに細分化して行い、校内研究とのタイアップを図りながら全職員で共通実践に努めていきたい。 ・気になる児童の状況やいじめ事案等については、アンケートや観察等をもとに職員間での情報共有を迅速かつ密に行い、組織的に対応することができた。今後も児童の心を育むための年間を通した計画的な取組、組織体制作りを行い、心の教育の充実を目指していきたい。 ・職員の働き方についての意識改革は順調に進んでいる。今後は、ワークライフバランスを考えた働き方、職場のよりよい環境づくりを推進しつつ、家庭や地域へも積極的に関わりかけ、連携の強化を図っていく必要がある。	
----------------------------	---	--